

## 第6回 下野市総合計画審議会会議録

日 時 平成24年2月7日(火) 午前9時30分～11時30分  
場 所 下野市保健福祉センターゆうゆう館会議室  
出席委員 中村祐司委員、石田陽一委員、小谷野晴夫委員、吉田聡委員、川口桂子委員、  
柴山征吉委員、尾花重吉委員、海老原新子委員、加藤芳江委員、鈴木祐孝委員、  
三宅義彦委員、田村友輝委員、江田小百合委員、小島恒夫委員、照井一  
富委員、大塚博委員  
欠席委員 高田憲一委員、本橋利男委員、永山茂夫委員、大貫達雄委員  
出席者 広瀬寿雄市長、板橋昭二副市長、古口紀夫教育長、川端昇総合政策部長、篠崎  
雅晴総務部長、伊沢和男市民生活部長、田中武健康福祉部長、落合亮夫産業振  
興部長、大門利雄建設水道部長、高橋敏雄会計管理者、鶴見忠造教育次長  
事務局 上野清一総合政策課長、星野登課長補佐、金田欣明主幹、古口明宏副主幹、  
篠原恵主査、古口貴之主査  
傍聴者 1名

### ○次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
- 4 市長への答申
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

### ○会長あいさつ

(中村会長) いよいよ第6回ということで後期の計画について確定という方向で進めていきたいと思う。今日は我々審議会から市長へ答申を堂々と出せるかと思っていますのでよろしくお願いいたします。

### ○議事

(中村会長) 会議録への署名については、今回は加藤委員と鈴木委員にお願いしたい。また、本日の会は公開とする。

#### (1) 前回会議録の確認について

(事務局) 第5回会議録について説明(資料1)  
・2名の委員から修正報告あり。

- ・2 ページ中段の川口委員の発言で、「語句を…」という箇所の内容の修正ではなく表現の修正があった。
- ・3 ページ上段の川口委員の発言で、これも内容の修正ではなく、発言の整理があった。
- ・4 ページ下から 8 行目小谷野委員の発言で、「昨年 12 月」を「昨年 11 月」に修正した。

(2) 後期基本計画（案）の確定について

(中村会長) 多少微修正があったと思うので、事務局より説明をお願いする。

(事務局) 後期基本計画（案）について説明（資料 2）

・17 ページの 17 行目、19 ページの 19 行目を「安全・安心」と文言の統一で修正した。

・委員からの自然災害が少ないことを下野市の強みとして加えたらどうかという意見については、18 ページの重点戦略 3 の本文冒頭に「本市は自然災害が少ないという特徴をもっており」と加筆した。

・附属資料中の「下野市財政のすがた」については、削除し、53 ページの中段に「このようなことから、下野市長期財政健全化計画…」と 3 行加筆した。

・25 ページの基本方針 2 行目が「文化芸術施設の整備について検討を進めます」という表現になっており、文言の統一から 26 ページの事業名「文化芸術施設整備の推進」を「文化芸術施設整備の検討」と改める。これは重点戦略事業であるので、17 ページの重点戦略 2 の中と附属資料の前期・後期事業比較表も修正した。

・その他、未だに事業名で分かりにくいものがあるので、内容の変更ではないが軽微な名称変更や修正が加わるということでご理解願いたい。

(中村会長) 本日はいよいよ仕上げなので、もう一度全体を見てお気づきの点があれば指摘いただきたい。

例えば、48 ページで施策・事業内容の表記が【防犯・交通安全対策】や【消防・防災】となっているが、他は【…の充実】や【…の推進】となっており統一されていない。統一した方がよいのではないか。

(事務局) 例えば 29 ページの【雇用支援対策】を【雇用対策の充実】とするなど、表記の仕方が統一されていない箇所があるので、会長と確認させていただきながら、今の表現より事業の中身がわかるような表現に修正させていただく。追って委員の皆様へ修正した計画書の送付をさせていただく。

(中村会長) 充実や活用や推進など、ふさわしい表現に修正したい。

(鈴木委員) 50 ページの「水道水源の更新」は、2 次素案では「水道水源の増設」で新規事業となっていたが、3 次素案から「更新」となって新規事業からも外れた。いきさつを伺いたい。

(建設水道部長) 当初は確かに「増設」となっていたが、井戸の本数を増やすのではなく、相対的な本数の中で老朽化した井戸を掘り直すので、「更新」と変更した。

- (中村会長) 事務局と私に意味を変えない程度での文言の微修正を任せていただきたい。
- (川口委員) 33 ページに「人に優しい交通環境の整備」がある。去年の4月に鹿沼で子どもたちが亡くなるような大きな交通事故があり、その後、教育委員会でガードレールなどの設置を通学路などにしてほしいという願いをした。安全な通学路の確保という形ではあるが、「人に優しい交通環境の整備」の中に、例えばガードレールの点検などがどこかに反映されているのか。
- (建設水道部長) ガードレールの整備という文言の記載はないが、生活道路の維持管理の中で対応可能と考えている。
- (中村会長) 他にいかがか。これで確定ということによろしいか。
- (各委員) 異議なし。
- (中村会長) 審議会として後期基本計画案を確定させることができ、お礼申し上げる。

<休憩>

#### ○市長への答申

- (事務局) 中村会長から市長への答申をお願いしたい。
- (中村会長) それでは、答申をさせていただく。  
<答申書を読み上げる。>
- (事務局) では、広瀬市長からお礼の挨拶をさせていただく。
- (広瀬市長) 6回と長きにわたって本市のバイブルである総合計画後期基本計画について慎重審議をいただき、厚く御礼申し上げます。合併という大きな流れの中から前期基本計画がつけられた。その本筋、底流に流れているものの変化の部分を感じながら、皆さんと一緒に後期基本計画に思いを寄せてきた。合併時には、同じような財政規模の三つの町が新しいまちをつくるに当たり、財政の見直し、様々な部分で無駄を省いた中で、将来に向けて下野市が進むべき方向を言葉に込め、前期基本計画の中に組み込まれた部分が、後期では、それに熟度を増し、より一層、言葉の飾りを外した中で、しっかりとした姿を見せてくれたという感じがする。本市が持つポテンシャルを段々と市民の皆さまにも分かってきていただき、それならば将来の下野市というのはこういう方向に行くべきであろうという思いの中で、この後期基本計画に臨んでいただいたと思う。多くの皆様のご協力をいただいて財政的にもいい形で進んでいるのではないかと。ただそういった中においても、尚且つ新しい市であるからドキドキしながらやっているところもある。それを皆さまと色々な意見の交換をしながら、この後期計画に沿いながら、ここに住んで良かったというまちづくりを皆さんと一緒にしていきたいと考えているので、これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げ、改めて御礼の挨拶に代えさせていた

だく。

## ○意見交換

- (中村会長) 我々審議会として、市長から非常に力強い言葉をいただき嬉しく思う。ここからは、意見交換ということで総合計画をテーマに自由な意見を出していただきたい。
- (加藤委員) 文化芸術施設整備の「推進」が「検討」になり大変残念に思っているが、大勢の人が整備を望んでいるので是非検討してほしい。
- (広瀬市長) 三つの町が合併し、一緒にまちづくりをしていく中で優先付けをしながら動かなければならないところがある。記述の変化は後退という意味ではなく、今まで検討という部分がうっすらとしか動いていなかった。過日、議会へ請願があげられたという状況等を踏まえた中で我々も考えていかなければならず、「検討」とさせていただいた中で皆さまと議論させていただき、本市が必要としているものがどういうものか見ながら、財政とのすり合わせをしながらという思いもあり、このような記述になったということでご了解いただきたい。
- (小島委員) 9 ページに下野市の現状で人口の記載がある。現状ということで平成 22 年度まで記載されているが、超高齢化社会の考察が少し必要だったかなと私見ではあるが思っている。
- (大塚委員) 下野市では、高齢化対策と子育て支援の予算の割合はどうなっているのか分かれば教えてほしい。また、本市独自の子育て支援や人口を増やす施策があれば教えてほしい。
- (広瀬市長) 高齢化と少子化を金額ベースで施策分けはしていない。施策として必要であろうという中で展開させていただいている。少子化の方では県内でも早いうちに子宮頸がんワクチン全額公費負担とし、中学 3 年生までの医療費無料化も行った。この部分は子どもたちもそうだが、若い親世代を安心させる。若い親世代を安心させることによってお年寄りの皆さんも自分たちの子どもや孫が安心だということで、一体感の中で施策を展開させていただいた。ただ、実質的なところでは高齢者が対象の敬老祝い金などを区切りでカットさせていただいた。こういった部分は高齢化施策をマイナスにしたという話にも取られかねないが、そうではなくて、高齢者の肺炎球菌のワクチンの方に予算を振るとかいう形で施策の展開をしている。根本の部分であるのは、人口の問題だと思う。国自体から人口増加施策というものが見えてこない。よく話をさせていただくが、下野市は「医・食・住」が整っている。「医」は衣服の「衣」ではなく、医療の「医」で、医療の部分では非常に安心して住める。それを前面に打ち出していき、その中で人口の部分に対しても様々な施策の展開と同時に、新たな人口増加施策を考えていかななくてはならないと考えている。
- (健康福祉部長) 高齢者に対する施策が最近少し手薄になっているのではないかと

話は高齢者の方から聞いている。しかし、本市では全ての面で財政にあった中で高齢者に対しても十分な施策を実施していると承知している。少子化対策も高齢者施策もないがしろにしているわけではないのでご理解いただきたい。

(鈴木委員) 前回の審議会で人口問題について多くの意見が出た。超高齢社会は否応なしにどこでも降りかかってくる問題で、今日、総合計画については終わるが、次のテーマとして、老人学はジェロントロジーというが、(仮称)下野ジェロント戦略会議を新たに立ち上げてもらいたい。超高齢社会は正面から取り組まないといけない色々な問題があるが、人づくりから始まり、環境づくりをして、超高齢社会の地域社会づくりをする。最終的にはGNH(国民総幸福度)の尺度で追及していく。

(広瀬市長) 下野市はまだ高齢化率は低い方である。だから今、鈴木委員の提案したようなものを一緒にやれればと思う。GNHの1位は福井県で、2位が富山県、3位が石川県とみな北陸三県である。なぜだろう。冬場になると家族がコタツに集まり、向こうは高齢化率が高いので雪下ろしを隣近所みんなと一緒にやるのだろう。だから地域の交流がしっかりとできている所が幸福度が高いのだろう。我々の地域でもそういう機会がつかれるような何かがあればいい。まだ本市の高齢化率が高くはないと言っても、今の係数で行けば、当然高齢化社会に入っていくので、今のうちに皆さんと色々な話をし、一緒に動けるのが一番いいのかなと思う。人口増加率についても、下野市は世帯数が増えても人口がある程度の所で止まってしまう。下野市の新たな潜在能力を調べながら、人口増加施策を少しずつ展開していきたいと思っている。

(中村会長) 潜在能力を計画の中で顕在能力に変えていくことが大切である。

(小島委員) 潜在能力という形で、県もフードバレー構想ということで農業に重点を置いている。本市はあれだけ立派な道の駅を造られ、素晴らしいことだと思う。さらに発展させれば潜在力を発揮するのではないか。自治医科大学もあり、健康な農産物を売っていこうということになれば、一つの形ができると思う。どまんなか田沼は売上15億円で全国5位であるが、下野の道の駅は全国1位ではないかと私は思っている。売上はどのくらいか。

(広瀬市長) 1月末現在で12億8千万円の売上である。どうしても道の駅のトップ3は規模が大きいのと、海産物を扱っているので商品単価が高い。本市は苺という高額商品があるので15億円を目指しているところである。今度、議会に基金条例を上程させていただき、道の駅の基金をつくりながらリニューアルや市民に還元させる施策をやっていきたい。情報発信という部分では非常に成功した。民放全社とNHK全ての局で取り上げていただいた。あそこで働いているみんなが上を目指そうと頑張ってくれている。一体感も醸成されてきている。

(田村委員) 私は30代で委員の中でも年齢は低い方だが、この場に参加できるのは非常に大事なことだと思った。子どもの施策や高齢者の施策のちょうど間の世代である。我々の年代が集まると話すのがもっとワクワクするようなまちづくりをしていきたいということ。フェイスブックやツイッターによると、このまちを出た同年代の人たちに地元の下野市を愛している人が多い。地元のことを発信するとすごく共感してくれる。地元に戻りたいという人が増えてきたり、ここから出た人たちがもっと誇りと自信を持てるようなまちづくりをしていてもらいたい。同時に我々市民も責任があるということをしっかり持ちながらやっていきたい。また、我々世代がもっと学べるような環境をつくっていただきたい。学校の勉強だけでなく、心の勉強など、意見を話せる場がもっと増えたら良いと思う。

(海老原委員) 安全・安心のまちづくりということで防犯灯を明るいLEDにしてほしい。茂原のごみ焼却場の北関東自動車道の下に防犯灯が1本もない。上三川高の生徒も通るのでつけていただきたい。

(中村会長) 手作りでも市内の防犯灯マップができればよいと思う。

(江田委員) 審議会に参加し、下野市が今までどんな施策をやってきたのか、これからどんな施策をやっていくのか、安心して住んでいけるまちだということを実感した。土台がしっかりしている中で私たちは安心して暮らしているので、「下野市に住んでいて良かった」と思えるが、プラスアルファで「下野市に住んでいて良かった」から「下野市に住んでいて本当に良かった」と言ってもらえるようなまちにしていけたら良いと思う。下野市民にとってこれから必要なものは、夢とか希望、目標だと思う。安全・安心に暮らせることは本当に大事なことだが、プラスアルファでやり甲斐、生き甲斐に繋がるものが必要だと思う。

(広瀬市長) 我々が行政のサイドでなかなか手を出しにくいのがフェイスブックやツイッターである。最初、やろうということで動いたが、ツイッターは炎上する恐れなどがあり、今はやっていない。ここに住んでいる人は下野市の良さを少しは感じているかもしれないが、他と比べてというのは分からないので、外の人の声を聞きたい。防犯灯については検討させていただく。また、「本当に住んでいて良かった」と言ってもらえるまちにしたいが、施策もばら撒きではなく、長くみんなのできる施策をつくっていききたい。

(鈴木委員) 今回の新規事業で三王山市有地の整備があるが、道の駅を中心にして、薬師寺や古墳を有機的に結び付け盛り上げてほしい。

#### ○その他

(中村会長) 審議会のメンバーとしては、本日が集まり散じてということになるが、まさに計画の実践という面では、このプロセスに参加した皆さんが特別な存在になる。これをもって私の進行を終わらせていただく。

(事務局) 今後、パブリックコメントを2月8日から3月8日まで実施する。また、

市民説明会を2月19日と20日にゆうゆう館で開催する。今までご協力いただき感謝申し上げます。

(板橋副市長) 本日は、市長へ答申いただき、策定委員の委員長としてほっとすると同時に、これでスタートラインに立ったという緊張を感じている。この計画を画餅にしないよう、一つひとつの事業を大切にして着実に推進していきたい。これからは正念場だと考えている。委員の皆さまには6回にわたり審議いただき心から感謝申し上げます。

以上

会議の経過を記載し、相違がないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

会 長

署名委員

署名委員